

第1学年 図画工作科学習指導案

1年2組 23名

授業者 江東 久美子

授業場 1年2組教室

1 題材名 「すきまちゃん」といっしょに せんのぼうけんへ レッツゴー！

「絵に表す A表現（1）イ、（2）イ、B鑑賞（1）ア 【共通事項】（1）ア、（1）イ」

2 題材設定の理由

本題材は、擬態語や擬音語を基にかいた1本の線からいろいろな形を見つけ、そこから思い描いた冒険の世界を絵に表す活動を楽しむ題材である。低学年の児童は、日常の中で自分の思いを擬態語や擬音語を用いながら相手に一生懸命伝えようとする。その発達段階を生かし、言葉の響きからイメージを膨らませて自分なりの1本の線にかく。その形から全体的な感じや思い浮かべる情景を、使い慣れたクレヨン・パスやカラーペンを使って工夫しながら表していく。その際、自分がつくった「すきまちゃん」と一緒に冒険に出かけるという設定にすることで、手や体全体の感覚が一体となり、想像力や構想力を高め、豊かな表現が可能になると考える。また、絵に表すことと「すきまちゃん」との冒険が繰り返されることで、表現と鑑賞の往還が自然な形で行われる。さらに、友達と作品を通じて交流することで、互いの表現の面白さや楽しさを味わい、自分の見方や感じ方を広げることができる。本題材を通して、児童が造形活動に夢中になり、つくりだす喜びを感じることで、今後の造形活動への意欲につながることを期待する。

本学級の児童は、明るく何事にも一生懸命に活動することができる。国語科「はなのみちでは、登場人物になりきって、ごっこ遊びを楽しむ様子が見られた。図画工作科「おきにいのいしをみつけよう」で形や色の感じから気に入った石を一つ選び鑑賞した際には、石に感情移入し、次時の「〇〇ちゃんのおうちをつくろう」へとスムーズに活動が流れ、石がどんな家に住みたいかについて発想したり構想したりし、楽しみながら造形活動を行うことができた。しかし、「みんなですもう1ねん2くみマンション」で自分の住みたい部屋を絵に表す学習では、日常的生活空間から抜け出して想像を広げ、表したいことをどんどん絵に表す児童がいる一方、イメージが十分思い浮かばず戸惑う児童や、自分なりの表現に自信がもてない児童がいた。そこで、前時の鑑賞題材「すきまちゃんのすきなすきま」で扱った「すきまちゃん」と一緒に線の冒険へ出かけるという設定にすることで、安心感をもって冒険へのイメージを膨らませ、絵に表すことができるのではないかと考え、本題材を設定した。

指導にあたっては、まずオノマトペカードを使って、言葉から連想したイメージを体全体で表現する活動を行い、自分なりの線のイメージをもつことができるようにする。続いて、画用紙に線をかいて試してみる活動へと移行する。基底材は色や形が意識しやすい白い四つ切画用紙を数枚用意し、描画材は線がはっきりかけるカラーペンを使うようにする。その際、同じ言葉から線をかいても一人一人がイメージする線が異なる面白さに気付くことができるようにする。さらに線を形として意識できるようにし、同じ線でも見る視点が変わると様々な見方ができることに気付くようにする。その後、本時の活動につながる四つ切画用紙に思いのままに線をかき、「すきまちゃん」と線の冒険へ出かけることに思いを馳せるような演出をしたい。第3・4時では、線の形から発想や構想したことを絵に表す活動を行う。自分と対象とを一体的

に捉える低学年らしさを生かし「すきまちゃん」と線の冒険へ出かけ、主体的に工夫して表現できるようにする。そして、想像したことを絵に表したり、児童同士で「すきまちゃん」との冒険を楽しんだりして造形活動と鑑賞活動とが往還するようにし、表現の深まりや広がりを目指す。また、さらに長い冒険をしたいと考える児童がいることを想定して、付け足すためのいろいろな形や大きさの画用紙を準備し、自由に表現できる環境を整える。第5時では、友達との冒険を楽しみながら交流する時間を設ける。言葉で思いを伝え合い、認め合うことによって、自分と友達の作品の面白さや工夫に気付き、様々な見方や感じ方へと広がるようにする。加えて、毎時間の振り返りの際にタブレットで作品を撮影し、自分の気に入っているところや工夫したところ、次時の活動で表したいこと等を記録することで、作品の価値付けや次時の学びへと繋がるようにする。また、それを教師は評価や次時への指導に生かしていく。このような手立てを行い、造形活動に浸り楽しみながら思考力、判断力、表現力を十分に働かせ、より豊かな造形活動を生み出していけるような授業を目指したい。

3 題材の目標

- (1)・擬態語や擬音語を基にかいた線から、想像を広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。
 - ・カラーペンやクレヨン・パスに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。(知識及び技能)
- (2)・擬態語や擬音語などを基にかいた線から、感じたり想像したりし、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3)・楽しく擬態語や擬音語を基にかいた線から、想像を広げて絵に表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・擬態語や擬音語を基にかいた線から、想像を広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色に気付いている。 ・カラーペンやクレヨン・パスに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	・擬態語や擬音語などを基にかいた線から、感じたり想像したりし、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしなら、どのように表すかについて考えている。 ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わいながら、擬態語や擬音語を基にかいた線から、想像を広げて絵に表す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導計画（5時間 本時3／5）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・ カラーペンを使って擬態語や擬音語を基にかいた線から、いろいろな形に気付く。	知 ◎	・ カラーペンを使って意欲的に線をかき、その形に着目している様子を観察し、記録に残す。（観察、対話、作品）
2	・ 線の冒険の様子を想像する。	思 ○ (発想や構想)	・ 線の形から自分のイメージを広げることができているか観察する。 (観察、対話、撮影)
3 (本時)	・ いろいろな形からイメージに合う色や表し方を工夫して絵に表す。	技 ◎	・ クレヨン・パスを使って、形から想像したイメージに合う色を考えながら表し方を工夫して表している様子を観察し、記録に残す。（観察、対話、作品）
4	・ 自分の表したいイメージに合うように、どのように表現するか考えている。	思 ○ (発想や構想)	・ 線の形から想像したことを基に、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている様子を観察する。 (観察、対話、作品、撮影)
5	・ 友達と線の冒険へ出かけ、表し方の工夫を見付けたり、よさや面白さを味わい、伝え合う。	思 ◎ (鑑賞) 態 ◎	・ 自分や友達作品を見て、表し方の工夫、よさや面白さ等について感じ取り、伝え合っている様子を観察し、記録に残す。（観察、対話、撮影） ・ 活動全体を通して把握し、記録に残す。 (観察、対話、作品、ワークシート)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本 時

(1) 目 標

擬態語や擬音語を基にかいた線から表したいことを思い付き、形や色、表し方を工夫して絵に表す。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意事項 ○評価【観点】(評価方法)
5分	1 本時の学習への意欲をもち、めあてをつかむ。	・ 前時までの活動を振り返り、本時の活動のめあてをもつことができるようにする。
	「すきまちゃん」といっしょに、イメージした ぼうけんを えに かこう。	
30分	2 擬態語や擬音語を基にかいた線から想像を広げ、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、表し方を工夫して絵に表す。	・ 線からイメージした冒険を伝え合い、想像を膨らませることができるようにする。 ・ クレヨン・パスでの表現法を提示し工夫を促す。 ・ 机をグループにし、友達の作品を自然と鑑賞できるようにする。 ・ 「すきまちゃん」や友達と対話しながら活動することで、イメージが膨らみ、表したいことを見付けことができるようにする。 ・ 線をかき加えたい児童のために、いろいろな大きさの画用紙を準備しておく。 ○自分のイメージに合わせて表し方を工夫して絵に表している。 【技能】(観察、対話、作品) ○線の形から想像したことを基に、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】(観察、対話、作品、撮影)
10分	3 本時の学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。	・ 「すきまちゃん」と自分や友達の線の冒険へ出かけ、表し方の工夫、よさや面白さ等について感じ取り、伝え合うことができるようにする。 ・ タブレットで自分の線の冒険の写真を撮る。

（３）評価及び指導の例

①技能

「十分満足できる」と判断される状況	・ いろいろな見方をし、形や色に気付きながら表したいことをクレヨン・パスの表現方法を工夫して絵に表している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 対話により児童のイメージをつかみ、友達の表現を紹介したり表現方法を提示したりして、絵に表すきっかけづくりをする。

②思考・判断・表現

「十分満足できる」と判断される状況	・ かいた線から自分のイメージをもち、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかを考え、楽しんで表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 画用紙を見る範囲を変えるように促し、新たな線の形に気付き、想像が膨らむようにする。 ・ 教師も一緒に「すきまちゃん」と線の上を冒険し想像が膨らむようにしたり、「すきまちゃん」を連れて友達の冒険を見て回り表したいことが見つかるようにしたりすることで、想像を広げるきっかけづくりを行う。